

第66回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会報告

放送コンテスト委員会

表題の大会の予選を令和元(2019)年6月2日に大阪府立天王寺高等学校で、決勝を6月16日に東海大学大阪仰星高等学校で行いました。それについて、報告をします。

予選 参加校(エントリー) 53校 283名(作品) [内訳はあとの表1参照]
ここから 26校 74名(作品)が決勝に進出
審査員 [あとの表2参照]

決勝

[アナウンス決勝課題]

大阪で開かれるG20(ジー・トゥエンティ)大阪サミットを前に、各国の首脳をきれいな街で出迎えようと、大阪のシンボル・通天閣のお膝元の繁華街「新世界」で、地元の人たちが清掃活動を行いました。

この清掃活動は、「新世界」の地元の青年会が呼びかけたもので、商店の経営者など、およそ20人が参加しました。

参加者は、はじめに、幸運の神様として知られる通天閣の「ビリケンさん」の像にG20サミットの成功を祈願したあと、周辺の街に繰り出し、路上に落ちているたばこの吸い殻や、側溝にたまったゴミを拾うなど、1時間ほどかけて清掃しました。

参加した女性は、「G20サミットという歴史的な日に向けて、このような活動に携わり、街がきれいになっていくのはうれしいです」と話していました。

[朗読決勝課題]

「なんだ、おまえ、海外でも透析できるんだって？」
巨人の監督になって五季目の原辰徳から、ふいに声をかけられた。
平成二十年十二月の優勝旅行の際、三井はハワイでも二日に一度は欠かさずに人工透析をしていた。
「はい、できますけど、それがなにか……」
「それなら、おまえ——」
三歳年上の指揮官がいった。
「もういちど、スコアラーをやってみる気、ないか？」

(平山 讓「最後のスコアブック」)

審査員<敬称略>

<アナウンス・朗読部門>

大橋信之(NHK大阪アナウンサー)、秋本みゆき(大阪市立高校:高視研役員)、伊藤元也(四天王寺学園高校:高視研役員)、田名瀬さゆり(府立桜塚高校:高視研役員)、竹中泰子(相愛高校)、松田朋子(府立みどり清朋校:高視研役員) 安田知博(「放送部インストラクター」)
計時担当:廣津麻美(大阪商業大学堺高校:高視研役員)

<番組制作部門>

中根 健(NHK大阪制作部チーフプロデューサー)、西田恵二(大阪府立泉北高校校長:高視研副会長)、緒方 稔(大阪府立桃谷高校:高視研役員)、阪本純治(桃山学院高校:高視研役員)、佐々木孝夫(大阪府立摂津高校:高視研役員・芸文連役員)、戸野佑亮(大阪府立槻の木高校:高視研役員)、伴慎一(大阪市立今宮工科高校:高視研役員)、吉新聖二(大阪府立春日丘高校:高視研役員)

計時・著作権処理確認担当:久下哲也(大阪府立池田高校:高視研役員) 酒井 学(大阪府立堺西高校:高視研役員)、 ※緒方先生はラジオ、吉新先生はテレビのみを担当

決勝の結果は表3に示します。

今年度の特徴として、①今回も参加校が50校を超えた(昨年度56校)が、エントリー数が大きく減少したこと、②朗読のエントリーが200名を下回ったこと(176名)、③研究発表のエントリーが1発表と大きく減少したことがあげられます。

①について、今回は53校でした。参加校は昨年とほぼ変わりありませんが、エントリー数が300を切りました。何年かぶりにエントリーされた学校もあるのですが…。少しずつでもエントリー校が増えていけば、もっと盛り上がるのではと考えています。100校超えますと、その次の年は全国大会には2倍エントリーできます。2020年に行われる第67回大会の全国大会は関西(兵庫県)での開催です。大阪としても、少しでも参加者増なども含めて意識していきたいところです。

②について、前回と同様の対応をしました。

(1)決勝での発表順序をアナウンス→朗読にする。

(2)アナウンスの決勝課題を、当日発表から2日前にホームページ上での発表に変更する。

(3)朗読の決勝課題を短くする。

の3点です。

今回も「朗読の決勝に30名近くが進出するのは、多いのでは」というご意見もいただきました。今のところ

る「これだ！」という対応ができていないのかもしれませんが。ご意見がございましたらよろしく願いいたします。

なお、朗読課題を選択した割合を表4に示します。

③について、60回大会から毎回研究発表のエントリーがありました。今回は1校ということで予選を行いました。

今回も参加校の顧問の先生方に、審査員や会場係としても関わっていただくことを行いました。前回は述べましたが全国大会でも「審査・運営に付き添いの顧問の先生方をお願いしたい」ということでしたので、大阪大会でもということで実施しております。次回以降も同じ方向で考えております。また、できるだけ多くの先生方に審査員をお願いできますよう、技術講座でも審査についての時間を取っていきたくと考えております。

以前からも申し上げましたが、文化部の活動に対して、顧問の付き添いなど十分な理解を得られていない学校もあるようです。近年は付き添いの顧問に役割をお願いすることは増えてきておりますので、事情をご理解いただきますようお願いいたします。

また、無理をお願いしたにもかかわらず、顧問の先生方にご協力いただいたおかげで予選がスムーズに進むことができました。ここにお礼申し上げます。

予選は、大阪府立天王寺高校で行いました。できれば、北大阪、大阪市内、南大阪と順にできればと考えておりますが、なかなか思うように参りません。今回は天王寺高校のみなさんには、大変お世話になりました。

決勝では、今回も東海大学付属大阪仰星高校を使いました。他施設とは異なり、会場内の移動や時間を気にせずにご利用できたことが大きかったです。NHKからは大橋アナウンサーと中根ディレクターに審査員長をお願いしました。お二人ともお忙しい中で長時間の審査をしていただきました。各校の顧問の先生方にも長時間の審査をしていただきました。改めてお礼を申し上げます。

各部門の昨年度と比較を次の表4に示します。

今回はアナウンスも朗読もエントリーが減りました。朗読の難しさが理解されてきたのと、新入部員の少なさが影響しているのかなと考えています。技術講座でもかなり突っ込んだ指導をしていただいております。昨年もあげましたが、「作品の内容をしっかり理解して表現すること」が朗読の大きなポイントなのかなと思います。この部分をもっと伝えていけたらと思います。

決勝課題は昨年が続いて「プロ野球」の話題でした。筆者がいろいろな作品を読み、案を立てています。こちらも偏らないように選んでいきたいと思います。なお、指定朗読作品の割合は表5に示します。

番組部門では、エントリーは前回とほぼ同じ数でした。年々ドキュメントもドラマも、一定レベルに達した作品が多かったという印象です。今回はラジオドキュメントで箕面高校が制作奨励賞、ラジオドラマで箕面自由学園高校が優良賞を受けました。いずれも丁寧な作り方（丹念な取材と練り込まれた構成、しっかりとしたストーリー）で見応え（聞き応え？）ある作品に仕上がっていました。

ラジオドラマは例年30作品近くの参加がありますが、今回は19作品でした。ラジオドラマに偏るのは、声優へのあこがれと「ドラマは脚本を書けばできる」と考えているふしもあるのかなといつも考えています。筆者の意見ですが、「ドラマこそ取材が必要」と思います。設定などにリアリティがあるものが全国大会でも上位に入っているように思います。「ドラマとは」ということもしっかりと広めていきたいです。

生徒たちは、普段はラジオをほとんど聞かないとか、聞いてもDJなどのトーク番組しか聞いたことがないようです。そのような生徒たちに実際に番組を作らせることは大変です。でもこれは教員向けの指導者講習会の席でも、「番組制作は、アクティブラーニングを実践しているのだ」と意見も出てきます。脚本を作り、編集をして、物作りの過程とその大切さが理解されるでしょう。しかし、全国に進出するためには、きちっとした準備が作品のレベルアップにつながるのかなと考えます。生徒だけでなく私たちも研修していくことが、大阪の課題の一つではないでしょうか。

決勝では、今回も卒業生に司会をお願いしました。天王寺高校の一ノ瀬萌さんと大阪夕陽丘学園高校の山村加奈江さんです。

お二人ともアナウンスで全国大会に進みました。大学でもいろいろと活動しているそうです。お二人ともお忙しい中を本当にありがとうございました。

最後に、このようなことをおっしゃる学校・先生がおられると聞きました。「どうせ、参加校は10校ほどなんだろう？」「役員が学校が全国大会に行けるようにしているのだろうか？出しても仕方がないやん」って…。

これって、私たちがバカにしてませんか？こんな心無いことばを聞いて、本当にがっかりです。役員は技術講座の企画を立てたり、講師を務めたりしています。

授業が私たち教員の本務ですが、技術講座も同じように生徒や顧問の先生方のニーズに応えられるように努力しているつもりです。決して「自分の学校だけ」ではなく、「大阪全体のレベルアップがしたい」と努力しているつもりです。そのような心ない言葉を聞き、正直残念ではありますが、これが大阪府の高等学校の現実なのかなと思うところもあります。それぞれの学校でいろいろと大変です。筆者の所属する学校でも、「働き方改革」で教員も19時には下校となっています。また「進学実績を上げよ！そのためにはクラブ指導は不要。」という者もあります。しかし、生徒が頑張ろうとしていることに応えるように努力することは、教員の本務だと思います。今後、このようなご意見をお持ちの方は、是非私たちと一緒に企画していただければと思います。

最後は大変失礼いたしました。

(大阪夕陽丘学園高等学校 中井勝久)